

平成 22 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会 会議録

開催日時

平成 22 年 9 月 10 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

開催場所

広島市役所本庁舎 14 階第 7 会議室

出席者

1 委員 20 名中 12 名出席

東川会長、小野副会長 天野委員、亀田委員、阪田委員、崎田委員、竹本委員、鍋島委員、萩原委員、播野委員、山本委員、吉長委員

（欠席：越崎委員、奥窪委員、曾根委員、中本委員、西野委員、本川委員、満田委員、本谷委員）

2 オブザーバー 3 名中 1 名出席

中野オブザーバー

（欠席：新出オブザーバー、富中オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局長、市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、
教育委員会学校教育部指導第一課文化・スポーツ教育担当課長

会議次第

1 開会

2 市民局長あいさつ

3 議事

- (1) 「広島市スポーツ振興審議会の公開に関する取扱要領」及び「傍聴要領」の改正について
- (2) スポーツ振興計画の骨子案について

4 閉会

公開・非公開の別

公開

傍聴者

5 名

会議資料

平成 22 年度第 1 回広島市スポーツ振興審議会 次第

広島市スポーツ振興審議会委員等名簿

議事の(1)関係

「広島市スポーツ振興審議会の公開に関する取扱要領」及び「傍聴要領」の改正について
議事の(2)関係

広島市スポーツ振興計画（仮称）の概要

計画策定の背景

基本理念とその実現に向けて

推進施策

計画の推進

広島市スポーツ振興計画（仮称）～ “新しい「スポーツ王国広島」” を目指して～【骨子案】

【参考資料】

施策推進の方向性と具体的な取組内容

スポーツ振興審議会（スポーツ振興計画検討部会を含む）での主な意見

会議の要旨

- 1 開会
- 2 議事の(1)（事務局より説明）
「広島市スポーツ振興審議会の公開に関する取扱要領」及び「傍聴要領」の改正について
（説明内容について意見なし）
- 2 議事の(2)
スポーツ振興計画の骨子案について
（説明内容について意見交換）
- 3 閉会

発言の要旨

【議事の(1)：「広島市スポーツ振興審議会の公開に関する取扱要領」及び「傍聴要領」の改正について】

〔東川会長〕

事務局から、要綱、要領等の改正について説明があったが、何かご意見或いは質問があったらお願いする。基本的には上位の要綱の見直しに伴って、それに合わせる形でこの審議会に関わるところが改正されたということであるが、これで良いか。

〔全委員〕

（意見なし）

〔東川会長〕

最初の議案については、ご了解いただいた。

【議事の(2)：スポーツ振興計画の骨子案について】

〔東川会長〕

資料に目を通していただいたかと思うが、前回の審議会開催から時間があいたことで、頭に残っていることを呼び戻すのに私も若干時間がかかったけれども、1つ1つご覧いただきながら審議をお願いしたい。それぞれが相互に関連しているところがあるので、全体的にお気づきのところがあったらお願いする。

〔吉長委員〕

初参加のため、皆さんと同じくらいのレベルになりたいので、いくつか質問をさせていた

だきたい。基本概念に関するものである。

事務局から説明のあった中の文言でジュニア層という言い方とジュニア選手という言い方が出てきたが、まずジュニア層の概念について、幅は例えば何歳から何歳までで、イメージ的にこうなんだというところのレベルが、私どもスポーツ協会のもつジュニア層のイメージと若干異なると感じるので、JOCジュニアオリンピックなどもあるが、その辺りを整理していただきたい。

2点目は、競技力向上のところで「国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市の選手の割合が50%以上」と目標を示してあるが、これについては成年が入っているのか入っていないのか、ジュニア云々と議論されているので、少年だけをターゲットにしてもいいかと思う。

また、この指標の21年度結果と私どもスポーツ協会が調べた結果とが合わないのはどうしてか。もちろん、本部役員や監督などは除かれていると思うが、その辺りはどうか。

〔東川会長〕

言葉には共通理解が必要なので、まず最初はジュニア層の捉え方・概念をお願いする。

〔事務局：三浦主幹〕

競技力向上のジュニア層の概念については、小学生から高校生までの範囲を考えている。それと、ジュニア選手も高校生までで、言い方を換えれば児童、生徒ということである。

〔吉長委員〕

細かい話だが、成長期のジュニア選手とはどういう意味か。児童生徒は発育発達の時期にあるので、成長期という言葉は必要ないのではないか。

〔事務局：三浦主幹〕

基本的にジュニア選手は成長期にあるということである。

〔吉長委員〕

議事資料(4)の競技力の向上のジュニア選手の育成強化のところで「成長期のジュニア選手のサポート」とあるので、別に成長期と書かなくても老齢期のジュニア選手はいないと思うので、そこらの整理が必要ではないかと思う。

〔スポーツ振興課長〕

意味としては、ジュニア選手は成長期にあるという意味を説明したつもりだったが、そういう整理で足りないか。

〔東川会長〕

ここはちょっと整合性の確認をお願いする。

〔スポーツ振興課長〕

2点目についてだが、50%以上というのは、成人も含めた数値目標であり、平成21年度の結果を44%と私どもは捉えてきたが、スポーツ協会が調べた結果と違うのであれば

整理したいと考えている。

〔東川会長〕

データの出所によるものなのか集計の仕方によるものなのか分からないが、データの違う箇所を1つ1つ解決していきたいと思う。私どものデータについてはそういう解釈をするということで、それに合うように修正し、その他文言についても整えていきたい。

競技力の向上の目標である50%以上については、成人も含めるのか、それともジュニアに限定するのか、ご意見をお願いしたい。

〔天野委員〕

そもそもこの数字に意味があるのか。「国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市の選手の割合」を50%以上にすることを目指す意味が良く分からない。

〔スポーツ振興課長〕

意味としては、競技力の向上の目標を具体的に数字で掲げていこうという考え方をもっており、その時に競技力の向上をどういう数値で表そうかと考えた時に、国体に広島市出身の選手がたくさん参加することが競技力の向上を表すのだらうと思い、定めている。

50%という目標については平成21年度が44%だったので、切りのよさも含めて50%という判断をしている。

〔東川会長〕

これは振興計画の中の、競技力の向上への貢献度を表す1つの指標ということである。

〔天野委員〕

国体に出る選手団はだいたい人数が決まっているわけで、その中で広島市選手の割合が何%だろうと相対的なものであって全体の中で広島県の選手団の競技力向上をしていくかということを考えるべきであって、その中で広島市の選手団が何%だろうと市民はあまり関係ないと思う。

〔東川会長〕

こういう意見があったが、どうか。具体的な数値目標を出したのは今回初めてなので、その辺りのことについて何か意見がないか。

〔吉長委員〕

この目標数値を出したときに、特に競技力の向上のことになると国民体育大会へ参加する選手のやり方に起因するところがある。例えば、来年の山口国体だったら、山口県はフルエントリーで予選など行わず、出ることができる。そうすると山口県では、例えば山口市の占める割合を高くしようと思えばできるのである。

来年、山口で国体があるということは、広島にもそのチャンスが回ってくるわけである。山口県は中国ブロックの予選大会に出場する必要がないので、その分、中国地方の他県の枠が広がるのである。このようなこともあり、目標をこれに限定するのではなく、違う目標を考えることを検討してもよいのではないか。

例えば、ブロック予選をどれだけ勝ち抜いたかということを目標に設定し、競技力の向上のために経費を、税金をつぎ込んだという方がよいのではないか。

〔山本委員〕

国体に限らず、全国大会にはインターハイなどもあるので、全国大会といった大きな大会を目指せる選手を増やすという意味で、国体に絞らないことも必要ではないかと思う。

〔東川会長〕

何かやっぱり競技力向上に貢献したという指標のようなものがあってもいいのではないか。それをどういう指標でそれに当てはめるかという問題があるが。

また、国体に限定した言い方についても少し見方を変えることもできるだろうと思う。全国大会、国際大会という様々なものをまとめた形も考えられると思う。

〔スポーツ振興課長〕

国体ということをテーマに目標値を定めているが、前回の資料でもそういう書き方をさせて頂いている。何で国体なのかということについては、広く市民が目標にできる、若い人から壮年まで目標にできるということで、市民が目標にしやすいということがある。我々としてもデータを掴みやすいことで選択している。

〔鍋島委員〕

指標化というのは、初めからずっと論議をしてきたことで、言葉だけでこうやろうとかああやろうとかいうよりも、具体的に数値化をすることによって方向を明確化すると書いて頂いているが、せっかく指標化しても意味のない指標化では誰も振り向かない。

事務局が言われたように国体という指標は分かりやすく、広島市のスポーツ振興計画なので、是非とも枠を我々が頑張って半分は取っていかうという意味が伝わりやすいと思う。

競技力向上でどちらの指標がいいのかと考えた時、全体的な面から国体もいい捉え方であると感じている。

〔天野委員〕

指導者や選手がこの数字を意識してやらないと思う。この数字をここに出してもいいが、行政の弁解のためだけに数字を加えても意味がない。具体的に何をするのかということをお示しいただければまた違うと思うのだが。

〔東川会長〕

ただ数値化しても仕方がないことであるので、何をこれからすることで目標を達成するのか考えなければいけない。

〔文化スポーツ部長〕

この指標は広島市のベンチマークの指標である。スポーツ力を表すための指標として公表し、毎年それを進行管理している。鍋島委員からもご指摘あったように市民の方に理解されやすく、データを取れるものの中からこういう指標を設定している。

〔東川会長〕

具体的な中身との関連もあるので、次回への宿題として検討する部分もあるように思う。
他の委員の方もご意見あったらお願いする。

〔市民局長〕

部長がした説明に補足する。

先ほどご説明したベンチマークというのは、実は大きな目標を達成するための複合目標の数値で、その下に事業ごとの事業目標があり、例えばスポーツで言うといろんなことをして、施設が増えた、参加者が増えた、練習回数が増えた結果としてこういうものが出るというのがあって、それぞれ個別の目標を当然設定する必要があるが、こういう計画の中では、いろいろなことをやった成果が連なって出たものをアウトカムと呼んでいる。

どの個別目標が具体的に効果を示したかということ判断するのは難しいが、そういった意味では公共の目標としてシンプルに取扱いやすいものをこういった計画では実効性を持たせるために挙げているということがあり、そういう意味で広島市のベンチマークとして挙げている。

実はこの下にもいろんな事業があり、事業の中で行政がやるべき、例えば何かを増やそうとか回数を増やそうとかいう目標もそれぞれ事業の中には載ってるものもある。

〔東川会長〕

この計画の全体的な計画の中の一つとして考えるのか、それとも踏まえた上で考えるのか。

〔竹本委員〕

今の件で、広島市の選手の支援、広島市出身の国体選手に対しての支援的な援助は行われているのか。

〔事務局：三浦主幹〕

国体選手に対する支援については、以前広島市から補助していたこともあったが、今はない。

〔吉長委員〕

支援の仕方はいろいろあり、スポーツ協会は広島市から選手の強化をするための合宿の費用の一部を補助金の形でもらっている。足りない分は、私どもと主管する競技団体が負担している。

竹本委員のご質問は歴史的に振り返ってみると、広島県選手団で広島市の選手が行くときに、十何年前だと思うが、1泊3食分の費用をコンディション調整しなさいという意味で、激励金として渡していた。

それは、個別の市からの支援策だったわけで、代表選手になり選手団の名簿に載ったら、広島市の選手はやらなければいけないと、税金1万円くらいもらっているわけだから起爆剤になっていた。

そういう面からいうと、その時に市から支援があったから頑張ろうか、将来的にも県の選手団の中に入って広島市を代表して出ようか、ということの頑張りどころがあったが、今はないので別にいいのではないかというのが天野委員の意見だと思う。

〔東川会長〕

支援については、この計画がしっかり伝わった時にそういう仕組みづくりになっていかなければならないが、それでこういう数値目標を掲げることがスポーツ関係者にとって相当な重みになると思う。

総合的な様々な分野など、それぞれのところで広島市と関係者がいろいろ頑張っていないといけないことは事実で、具体的な取り組み内容については少し問われる気もするが、それをしっかり再認識しながら総合的な一つの指標として国体での広島県選手団の半分は広島市が占める、それくらいの目標を考えているという指標だというあたりでどうか。変にまとめるつもりはないが、具体的に代わりの指標を準備するのはなかなか難しいと思う。

〔吉長委員〕

他の委員から様々な意見があったので、これにコンクリートするのではなく、必要があれば中間年で見直しをやればいいのかではないか。

もう１ついえば、「週１回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を63.0%以上にします。」とあるが、先月発表されたスポーツ立国戦略では同様の目標が3人に2人で65%程度ということになっている。広島市がこれを下回ってもいいのか。どうせ目標を示すのならこれ以上にしてもいいのではないか。

〔東川会長〕

頂いたご意見を大事にしながら、うまく活かせるものもあればまだまだのものもあるので、少し模索しながら一応今回のたたき台を基にしながら検討させていただきたい。

〔吉長委員〕

「地域における子どものスポーツ活動の促進」ということで、広島市小学生体育連盟の活動への支援ということで団体名称が書かれている。スポーツ少年団も広島市小学生体育連盟と同じように書いてもらうか、小体連と少年団を分けるのではなく、「小学生で構成されるスポーツ団体」のようなオブラートに包んだ形で記載してもらいたい。スポーツ少年団に入っていないサッカーチームや小体連にも入っていないサッカーチームがあることを理解してもらいたい。

もう１つは、回答は要らないが、活字であえて小体連は活動への支援、スポーツ少年団は活動促進とあるが、何か意味合いが違うのかと疑問を感じる。

また、我々スポーツ協会の職員を指している地域スポーツ振興担当コーディネーターは多く出てきて、非常にありがたいことだが、あまり期待をされると、コーディネーターの老齢化が進むと事がうまくいかなくなるので、コーディネーター等で括るのではなく、体育指導委員の活動の場という整理をしていただくのがいいのではないかと思います。

また、「地域における子どものスポーツ活動の促進」のところで誤解を招きやすいのは、子ども会やコーディネーターが子ども会に行き事業支援することは分かるが、児童館の事業への支援というのは児童館にはちゃんと指導員の方がいて、何でコーディネーターがそこへ行って指導員のお邪魔をする必要があるのかという思いがする。コーディネーターが行くところは子ども会と児童館というように捉えられたくない。本当の意味は違うのかもしれないが。

〔東川会長〕

さっきのご意見は議事資料2 或いは3 でいうところで、大きな流れについてはこれまでを押

さえながら検討し、今回初めて数値目標が出たので、そのことについては、吉長委員から出た具体的な意見にそれぞれの施策をどう肉付けしていくのか。１つは、「地域における子どものスポーツ活動の促進」、大きな括りでいくと「地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興」というところになる。

〔阪田委員〕

小体連の方はどこもそうだと思うが、指導者が高齢化していて、今の若い指導者、教員がいない。まず自分の時間というものが無い。小学校では、その後残った時間を子どもたちに、といった感じである。中学校の場合はまた違った部分があると思うが、そういう形での取組みが多くなったように感じる。若干の４０代、５０代が一生懸命頑張りながら繋いでいるという段階で、３０代、２０代が本当にいなくなっている。そのままで行くと、続けるに続けられないという、本当に潰れていく団体が出てくるのではないかなと思う。

特に、個人でやる種目では手薄になりがちである。サッカーやバレーという形でいけば年間登録して試合のときに集めることが出来るが、個人の場合、１人２人なら次回に回せという風になっており、なかなか出る子がいない。今頑張ってやっているが、本当に深刻な状況になってきており、ここで本当に団体、協会などいろいろな知恵・力を借りながら、支援していただくとありがたいなと思う。

〔東川会長〕

今のような状況もあるが、もう一方で今回の推進に向け、計画的にどう推進していくかについてはかなり時間をかけて審議会或いは専門部会の方で話し合ってきたところだが、それぞれが事務局の説明のとおり、それぞれが単独でこうやっていくのではなく、それぞれが子どもたちのためになるようなイメージというか、そういうものが１つでも出せるような計画を目指そうじゃないかということで頑張っているが、それには先ほど吉長委員からあったようにそれぞれ単独で挙げるのがいいのか、それともリンクする形がいいのか、意見を願います。

〔鍋島委員〕

先ほどのことに関連するかも分からないが、私は中区のスポーツセンターの他に民間のスポーツジムに行っている。ここには高齢者がものすごく多くいる。日昼でもジムの筋トレをやる機械を中で待たねばならないくらいである。皆さんは比較的健康的な人が通われていると思われるかもしれないが、車いすの方や杖を持っている方が日昼の会員になっておられる。費用的には毎日通っても６千円か７千円くらいだと思うのだが、今高齢者の健康づくりというか、疾病予防を兼ねてスポーツを楽しもうという人が増えてきているということではないだろうか。

それともう１つ、幼稚園か小学校くらいの子が学校ではできなくなっている跳び箱や鉄棒をスポーツジムでやっている。

スポーツジムの１つの施策だと思うが、今私はＣＢ、ＳＢといったコミュニティービジネス、ソーシャルビジネスを何とか推進していこうと、内閣府から相当補助金が出るので、そういうことを一生懸命やっているが、このスポーツの世界でも、金儲けをするということではなしに、スポーツで健全な市民を増やしていこうという目的に対して、ＮＰＯや民間団体がこれからどんどんそういう形で入ってくるのではないかなと思う。

その一環かどうかは分からないが、スポーツジムがあれだけの人を取り込んでいる。それをスポーツ人口とトータルされると、さきほどの６３％の目標は６５％に到達するのではないかな

と思う。だから、これからは民間のスポーツジムを活用することが必要である。

以前に少し話したことがあるが、高齢化社会は2005年で4人に1人が高齢者になったと言われており、2020年で3.5人に1人くらいの高齢者になると言われているが、そういう中で比較的元気な高齢者がスポーツセンターにどんどん集まってくるようになると思う。スポーツセンターに集まってくると自ずと限界がくるので、民間と連携しながらスポーツ環境を整えるということを徐々に考えておかないと、2020年の時点でかなりの高齢者が溢れ出すと思う。

先ほど小学校の指導者が少なくなっているというのも60歳くらいの比較的元気な人をスポーツのサポーターとして集めれば、年金生活者ですから時間がたっぷりあるので一生懸命サポートしてくれるのではないかと思う。今の若い人は仕事が忙しく、ボランティアで地域の活動に出なくなっているのも、今のままではサポートをできない人がどんどんこれから増えていくと思う。先ほどの話がいったように、小中学校の先生は他の仕事が多すぎて、動きがとれない。動きがとれるのはやはり高齢者だと思う。これから少子高齢化社会の中では、その高齢者をスポーツ環境の中にどう取り込んでいくか、そしてその高齢者を中間的な指導者としてどう活用していくかということが課題となってくる。このように民間のスポーツセンター等の指導連携など、そこらのことも何らかの形で触れなければならないのではないかと感じている。

〔市民局長〕

鍋島委員の貴重なご提案があったが、答えになるかどうかだが、ちょっと状況を説明させていただく。

広島市の計画にはスポーツ振興計画のほか健康づくり計画ということで、「元気じゃけん広島21」というのがある。これらにはファジーなところがあって、おっしゃられたスポーツセンターでの体力づくりを、スポーツとして位置づけるのか、体力づくりとして位置づけるのかということもある。また、昔は寝たきりの方をどうするかというのがあったが、今はどのように寝たきりの方をなくすのかという予防に力が入ってきており、高齢者の介護保険施設にランニングマシンを設置しているところも多くある。そういう幅広いところで健康づくりがあるので、健康づくり計画である「元気じゃけん広島21」でもそういうことを書いているし、高齢者の健康福祉計画の中にもそういった記述があったりするので、ジャンルの整理が難しく、あちこちに記述があるが、スポーツの下でどこまで記載する必要があるかという問題がある。

基本方針の4つの柱の中にある「地域のスポーツ・レクリエーション活動の振興」の中に健康づくりも入っていると理解すると、鍋島委員がおっしゃったようなことも明記の必要もあろうかと考えるが、健康づくりか、それともスポーツかというところの整理を行う必要があると感じている。

〔萩原委員〕

今、高齢者の問題が出ているが、高齢者ほどマナーが悪いものはない。私は高齢者のマナーが1番いいと思っていたが、若い者よりマナーが悪い。それと、今鍋島委員が指導者にと言われたが、自分さえよければいいといった個人主義の方が多く、なかなか指導してくれない。

それと問題は子ども会である。広島市の子ども会の組織率は50%以下である。だから、子ども会も難しい。子ども会をいろいろな行事に引っ張り出そうと思ってなかなか出てこない。だから私は63%という目標はなかなか達成できる目標ではないなと感じている。ただ、目標は目標なので、やらなければいけないかなあとは感じている。

スポーツセンターは人が多いと言われるが、平日は入館料が無料の高齢者がほとんどである。広島8区のスポーツセンターのうち東区のスポーツセンターだけ駐車場が有料化されているため、65歳以上があまり来なくなっている。東区の場合は安佐北区のスポーツセンターや中区のスポーツセンターへ行っている。この点から言うと、63%を達成するのは厳しいと思う。

〔吉長委員〕

鍋島委員がおっしゃった民間スポーツクラブとの連携についてだが、健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興ということでメタボ対策など書かれてあるところに、民間との連携が大事なのであればそういう形のものを掲げてはどうか。例えば参考資料の1では、「元気じゃけん広島21」の趣旨に沿って具体的な取り組み内容が書いてあるので、その辺りで何か言葉を足しておけば、ある意味民間等との連携も視野に入れた展開が出来るのではないか。

現実に民間のスポーツクラブが市から事業委託を受けて行っている事業はある。我々のスポーツ協会も委託事業を受けているが、同じ仕事を民間が受けているところもある。だからそこらのところの連携が必要になってくる可能性がある。何か記述ができるとすれば、その辺りかなと感じている。

〔東川会長〕

先ほど吉長委員からコーディネーターということだけ前面に出て行く形よりも、もっといろいろな方を活用できるような方法に努める、特に丸めないでもうちょっと具体的にしていこうという意見があったが、これに関連する意見はないか。

〔天野委員〕

ちょっと教えていただきたいのだが、地域スポーツ振興担当コーディネーターというのは今何人いて、人数の推移はどうなっているのか。

〔スポーツ振興課長〕

21人である。最初は24人だったが、少し減って21人になっている。

〔天野委員〕

減っている理由は何か。

〔スポーツ振興課長〕

退職である。退職後、補填していないのが理由である。

〔天野委員〕

21人は8つのスポーツセンターに配属されているのか。つまり、スポーツセンターに3人もしくはそれより少ない人数ということか。

〔スポーツ振興課長〕

1つのスポーツセンターに2人から3人ということである。

〔天野委員〕

いろんなところに地域スポーツ振興担当コーディネーターの名称が出てくるので、いかにも少ないような印象を受ける。今後この計画を推進されるにあたって増員の予定はないのか。

〔スポーツ振興課長〕

地域スポーツ振興担当コーディネーターはかなり強調させていただいているが、これは広島市の独自のものなので、ぜひこれを計画の中で位置づけたいという思いが私たちの中にあり、出来るだけ書き込めるところは書き込もうという思いがあった。

具体的にこれから事業に見合うように人員を確保するのかということについては、具体的な方針を持ち合わせていないが、現状維持は何とか確保したいし、現状は21人だが、それ以上のものを確保したいという気持ちは私の中にはある。

〔天野委員〕

所属はスポーツ協会ということになるのか。実際2人では出来ないと思うし、3人でも難しいのではないか。その辺りのバランスが悪いと思うので、増員していただければと思う。

〔東川会長〕

地域スポーツ振興担当コーディネーターという制度が取り入れられて、今までのスポーツセンターへ来てくださいという立場から地域へ出て行きますよと、そういう地域と関わりをもつことでアイデアの循環をもつことができるという評価も聞いているので、先ほど事務局の方から言われたように広島市が進めている1つの目玉になるのではないかと。

計画に載るということはそれだけの重みがあることだと思うので、皆さんもそういうことを期待して、むしろもっと載せてくれという意見が出るかもしれない。

〔竹本委員〕

「まちの活力創出に向けたスポーツの振興」の目標で、年1回以上会場で観戦した市民の割合が43.2%以上ということだが、今がいくらで目標が43%ということになると思うのだが、このデータはいつのデータを基準にして書いているのか。カープがトップス広島に加盟した年以降のデータになっているかどうかを確認したい。

〔東川会長〕

私の記憶では、市民意識調査の結果はカープがトップス広島へ加盟した後のものだったと思う。

〔竹本委員〕

それと、先ほど吉長委員も言われたが、スポーツ王国広島を目指してという中で国が打ち出した目標よりも低いとか、その次の体力テストの問題でも全国の平均値以上になっている項目の割合が50%以上とか、全国の平均値よりも上へ行こうやということは大変難しいのかもしれないが、やはりスポーツ王国広島と基本理念に打ち出して、平均ぐらいでいいよというのはいかななものかなという気がする。

〔スポーツ振興課長〕

目標は頑張れば少しは手が届くかなというところで設定している。

〔市民局長〕

おっしゃる通りだと思う。行政がやったら済むというのではなく、逆に言えばみんなで一緒にやろうじゃないかとおっしゃっていただくのであれば、私たちもあえて下げましょうということは言わないので、そういう気でやろうじゃないかとおっしゃっていただければ、厳しい目標になるかもしれないが、そういう方向にスポーツ振興審議会でそうしようというご意見があれば、そのように変更するべきかと考えている。

〔東川会長〕

届かないような目標でもまずいが、やはり先ほど竹本委員がおっしゃられたように新しいスポーツ王国を目指すという上で、その辺りの目標をいくかに定めるかというさじ加減は難しいところはあるが、やはり志はしっかり持って、そういう方向で共通認識を持つということによってよろしいか。

〔吉長委員〕

目標を高く掲げるのはいいと思うが、昨日、一昨日事業仕分けに区民スポーツ大会の経緯が引っかけたような感じで、やはり水と空気とスポーツはタダの時代がずっと明治以降続いてきたので、今度はそれを有料にするという仕掛けがいると思う。金が無いと言いながら財政的な支援を求めたいのだが、本当に無い場合は受益者負担で自分がお金を出して目標値を達成しないといけなくなる。竹本委員のおっしゃる気持ちはよく分かるが、あんまりいくと結局行政の方は、やりましょうと答えてもそれ相応のものを準備しなさいということになるので、局長がおっしゃたように何とか手の届くところの方がよいのではないかという思いもあり、難しい判断だと思う。もし、目標数値の上方修正について賛同を挙手で求められたら、挙げないかもしれない。

〔竹本委員〕

私は、スポーツはやっているが、スポーツ団体として委員選任を受けていない。やはりスポーツに関わる人がそういうことを打ち出さない限りは絶対に目標は達成できないと思う。そういう意味であえて言わせてもらった。

〔東川会長〕

私もあるスポーツ団体に関わっているので、よくわかっている。その辺りの数値はなかなか難しいところだが、そんなところも含めて中間年には見直しを行っていくことも考えないといけないと思う。最初から見直しありきではまずいと思うが。

〔鍋島委員〕

基本理念についてだが、1番下から2行目の「スポーツが好き、仲間が好き、広島が好き」な市民の笑顔であふれる新しい「スポーツ王国広島」を目指します。というのは読んでいただければ分かるのだが、自分自身が目を通して読むと、広島が好きをかぎかっこでとじて「な」があるのが、非常に読みづらい。ここはこの表現でよいのかと感じている。

〔東川会長〕

いろいろと意見が出たが、まず数値目標については、先ほどご意見をいただいたところも参考にしながら、検討していきたいと思う。

議事資料１の基本理念の中に出ている表現の問題については、ちょっとわかりやすいようにということだろうか。ずっと市民の方々にも入ってくる工夫をしたらどうかという意見があったが、新聞社の天野委員はどうお感じか。

〔天野委員〕

サブタイトルのところにも～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～と謳ってあるので、本文の中にはなくていい。平和なまちづくりに取り組むことにより、市民の笑顔であふれる新しい「スポーツ王国広島」を目指します。として、「スポーツが好き、仲間が好き、広島が好き」という文言はサブタイトルのくだりででているので、本文の中に入れなくてもいいのではないか。

〔吉長委員〕

「スポーツ王国広島」となっているが、「新しいスポーツ王国広島」ではないか。

〔天野委員〕

かきかっこがなくていい。吉長委員が「新しいスポーツ王国広島」と言われたが、そもそも私なら入れない。

〔市民局長〕

これは基本計画に入っている。私も詳しくは知らないが、「スポーツ王国広島」というのはかつての威光であって、新しいということで単に清書したものであり、「新しいスポーツ王国広島」ということではない。

〔東川会長〕

今、ご説明いただいたが、先ほど天野委員から言われたように～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～というのは上に出ているので、変えることでわかりやすいようであれば変えるということではいいか。

〔崎田委員〕

「これまで」から始まる上の行で、悪意をもって読めば、「スポーツ王国広島」は競技力の向上が達成されたというのがあまり良くないイメージで読めるかなという風に思う。過去にはスポーツ王国を体現されて広島の名前を広めてくれた人もおられると思うので、もう少し配慮ある書き方の方がいいかなという風に感じている。

〔東川会長〕

この辺りのところには、これまで審議会、部会の方で様々な意見交換がされてきたことで、反映されているが、また後で検討しなくてはけない。

〔天野委員〕

例の民間主体のサッカースタジアムの件だが、田村課長が最初にご説明いただいた内容をもう一度通してご説明いただければと思う。

〔スポーツ振興課長〕

サッカースタジアムの整備については、サンフレッチェ広島から本市への協力要請を受け、平成15年2月市議会において、「サンフレッチェ広島と市民が創るサッカー専用スタジアム推進プロジェクト」を市議会に表明し、サンフレッチェ広島が中心となって設置した「サッカースタジアム推進プロジェクト」へ参画し、その検討結果を踏まえて、本市の支援内容を検討することになっている。基本計画の策定に当たっては、広島市基本構想・基本計画特別委員会での質疑・応答を経て「民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して必要な支援に取り組む。」との記述を挿入したものであって、こうした経緯を踏まえれば、基本計画の部門計画であるスポーツ振興計画の策定に当たっては、建設主体についての具体的な状況変化がない限り、「民間主体」と明記せざるを得ないので、答申においてもそういう形にせざるを得ないと考えている。

〔天野委員〕

聞き違えていたら申し訳ないが、推進プロジェクトで検討結果を踏まえてということだが、検討した結果、民間主体で整備していくということでご理解されているということか。

〔スポーツ振興課長〕

まずサンフレッチェ広島からの協力要請を受けて、「サンフレッチェ広島と市民が創るサッカー専用スタジアム推進プロジェクト」を議会に表明したのだが、それと同時にサッカー専用スタジアム推進プロジェクトへ参加してくださいとの要請があったので、プロジェクトに入っていて、プロジェクトの検討結果を踏まえて、市としてどういう内容の支援をするのか、検討することになっている。

〔天野委員〕

2003年に推進プロジェクトが出来たときの最初の設立メンバーはお分かりか。その中で検討結果は民間主体ということになっていないと思うが。

〔スポーツ振興課長〕

今、そのメンバーは手元に持っていない。最終的な検討結果は検討途上にあって、最終的にはまだ結論が出ていないと理解している。

〔天野委員〕

検討結果が出ていないと理解している理由は何か。

〔スポーツ振興課長〕

1番最初にご提案があったのは、サンフレッチェ広島が市民とともにサッカー専用スタジアム整備について市も協力してくださいというご提案があったので、ご協力いたしましょうということで話がはじまっており、その提案を受けた市としては、サッカー専用スタジアムに関す

る取り組みとしては民間主体の中でしか協力はできないだろうということで基本方針ができている。

〔天野委員〕

最初の案を表明されたとき、市役所の方もその場所にいらっしゃった。その中で市の方針が変わったということである。サンフレッチェが持ちかけたというのはちょっと違うと思う。サンフレッチェの久保社長も県サッカー協会の野村会長もいらっしゃったので、さきほど野村会長に確認したが、全然民間主体ということには推進プロジェクトの方ではなっていないということだった。

〔市民局長〕

この件については、先ほど申しあげたけれどもこの計画が基本計画の部門計画だということで、過去に遡った経緯は知らないが、基本計画をやるときにサッカーの記述がなかったということで質疑がおこなわれており、サッカーのことに触れるべきではないかという意見に対し、市としては市がつくる整備計画としては難しいとしている。

過去の経緯からいって一緒に作りましょうという気運があって、そういうことで民間が主体となれば市としてはそれなりの支援をしましょうということで整理をしているということなので、サッカー専用スタジアムの記述についてはご存知のように基本計画も民間主体の整備ということで書いておりますので、文言の統一ということで書かせていただいている。

〔天野委員〕

市の方針で基本計画は民間主体と書かれているが、ここは審議会なんで民間主体と答申するとサンフレッチェが作るのかという風に誤解されると思うので、審議会の答申の内容として民間主体を削除し、市は市のスタンスで民間主体とすればいいのではないか。だいたい去年10月に3年ぶりに推進プロジェクトが立たれたときも、官民一体で推進していくということにしているわけだから、改めて申し上げるが検討結果の中に民間主体という問題を削除して、「サッカー場の設置」とすれば何も問題がないと思う。

〔東川会長〕

前回の審議会でも出た話だが、この部分で何か意見はないか。

〔吉長委員〕

今、天野委員がおっしゃったのは、審議会として広島市から諮問を受けているわけだから、審議会としての答申書には民間主体という言葉削除して答申すればいいじゃないかと。答申書を受けて、振興計画を作るときに民間主体という言葉を入れるのは市の判断だということである。

〔天野委員〕

前回サンフレッチェの本谷社長が民間主体のサッカー場の支援ということで、お前のところでやるのか、お前のところが主体的にやるのかと言われたらちょっとまずいと言われていた。

〔市民局長〕

過去の経緯は天野委員がおっしゃったようなことがあるかと思うが、基本計画を作った段階では、過去があったからそうだということではなくて、民間主体の盛り上がりが出てくれば、それは市として支援しますということで整理したと私は理解しているので、今までどおり市主体の整備は考えていない。その代わり民間が主体となってやろうじゃないかといった気運の盛り上がりを通して市としては支援していくということで整理をしていると理解している。

過去のことをそのまま書いてあるという認識ではなく、その経緯があってプロジェクトがあって、その他の動きがあって、基本計画を作る段階でもそういった動きが消えていないという認識があって、その辺を踏まえた上で今後も起こりうるだろうといった整理をして欲しいという声があれば、建設主体の支援をできる形を検討するというのが市の考えだと思うので、そういう理解をお願いします。

〔天野委員〕

別に市が中心になって作ってほしいということではない。どうなるかわからない状況で、なぜ民間主体なのか、まだ流動的なルールがたくさんあるわけで、民間主体という必要はないのではないか。

〔市民局長〕

抽象的なことをあえて書いているのは、表現の仕方として民間主体でという方が適切ではないかという判断で整理をし、その本意とすれば市がそれを整備したいということではないというメッセージとしてではないかと思っているので、そこはもう少し整理を試みる。

〔天野委員〕

「民間主体」という言葉は不要ではないか。削除した方が適切ではないか。局長の説明は矛盾している。どうなるかわからないので民間主体とっておいた方がいい、要するに市はやりたくないということである。

しかし、官民一体の推進プロジェクトの中には市はメンバーとして入っている。

〔スポーツ振興課長〕

基本計画の中に民間主体という言葉を入れたのは、市が整備主体にならないということで、事務局としては基本計画を前提とした部門計画なので、そのような枠組みの中で書きたいと思っている。「民間主体」と書かなかった場合、基本計画の異なる表現をする理由を整理するのは難しいと考えている。

〔東川会長〕

このことについては、前回の審議会の中でも何回か出たことだが、局長が説明したとおり抽象的な記載で文書の中で様々な制限を行わず、方策が考えられるのでそういう中でできないかということで、若干私も十分な認識ができていないが、そう理解している。審議会という立場もあるので、基本計画の中の実施計画という理解でどうか。

〔山本委員〕

市が主体にならないということが確定されているのであれば、市は主体にならないがという

ことを明記すればよいのではないか。

〔市民局長〕

私が言うのは民間主体のサッカースタジアムを気運に呼応して取り組むということがそれをベースに書いているので、この件につきましてはお時間をいただいて、再度行政サイドで検討させてもらいたい。

〔吉長委員〕

今の審議会の案は気運に呼応するという言葉が抜けている。民間主体をとっても、気運に呼応して支援をすればやわらかくなるのではないか。

〔東川会長〕

今までの意見を踏まえて検討することとし、預かりの形でよいか。

〔天野委員〕

今ここで結論を示してはどうか。だいたい、平成21年度は年度内にもう1回審議会を開催するといっておいて開催しないで、また検討課題にするというのはどうなのか。

〔東川会長〕

次の審議会が10月くらいには開催する予定なので、ここで結論を出してもいいが、委員の皆さんが同じ方向で出来るのではないかなと思うので、この件については宿題ということにさせていただきたい。捉え方が微妙に違うので、そのあたりを十分に確認しながら整理したい。その他の報告、内容についてお気づきの点があればお願いしたい。

〔播野委員〕

私はスポーツ観戦が好きなので、新聞等でトップス広島のことが出ると、一生懸命見ている。現在の加盟チームは何チームあるのかお聞きしたい。

加盟チームの情報を提供していくと他のチームの試合にも行ってみようかということになるのではないかなと思う。

〔山本委員〕

現在、カープを含めて9チームある。ただし、ハンドボールについては広島メイプルレッズとワクナガレオリックの2チームがあるので、8種目の団体が加盟している。

〔播野委員〕

最初からみると増えているなあというのがあるが、一般市民としてはそういうチームがどこにあるのか、またそういうチームの情報があれば他にも行ってみよう、友達を誘ってみようというようなことになるかなと思う。

ただし、情報を提供したからといって、トップス広島を知っている人の割合を高める効果があるかどうかは分からないが。

〔吉長委員〕

広島トップスポーツクラブネットワークの立場に立つと、今度は毎試合広島市民が何人来るか統計をとらないといけないと思うのだが、その辺りは大丈夫なのか。

〔スポーツ振興課長〕

広島市の企画調整部が毎年行う市民意識調査の項目の中に入れる予定である。

〔東川会長〕

何%という言い方がいいのかそれとも何人に1人という言い方がいいのか、訴え方としてはどちらがいいのかなと思う。トップス広島の認知度は大分知られるようにはなったと思うがどうか。

〔山本委員〕

おかげさまでカーブが入ったので、メジャーのスポーツと合わせてハンドボールなどその他のスポーツのPRにつながればと思っている。

〔吉長委員〕

目標値の「20歳以上」の枠をとった方がいいのではないかな。選手が学校へ出前で指導に行ったりしてるのではないかな。そうすると、子ども達があの選手に教えてもらったから今度応援に行こうというように気運が高まるのがずっと早いわけで、年齢枠を取っ払った方が効果的である。

〔スポーツ振興課長〕

市民意識調査の対象が20歳以上である。

〔山本委員〕

スポーツ協会が実施しているスポーツ教室や教育委員会が実施しているDOスポーツなどを通して選手が指導した結果、やはり子どもたちの方が認知度は高いと感じている。

メイプルレッズはシーズンオフのフラワーフェスティバルに参加しているが、子どもの方は気づくけれども、そのお母さんは気づかないということがよくあった。

〔東川会長〕

このたびの市民意識調査では子どもが該当しないが、子どもに関する目標を設けることで子どもたちに向けての調査なども検討できたと思う。そろそろ予定の時間が来たが、亀田委員は何か意見などないか。

〔亀田委員〕

私は総合型スポーツクラブの運営に取り組んでいる。今、一番総合型を行っていく上で困っているのが、利用する施設の面である。今から先、総合型スポーツクラブを校庭開放の中で増やしていくのなら、中学校を極力利用できるようにあけるように考えてもらえれば、スポーツ振興に寄与できるものと考えている。

具体的に申し上げますと、うちの場合、街中にあるのだが、3分の1の人が学区外の利用者で、

会社帰りにスポーツを行おうと思っている人が参加している。先ほど申し上げたように中学校を総合型スポーツクラブへ開放してもらえれば、週１回スポーツをする市民の割合を増やすことが出来ると考える。

〔中野オブザーバー〕

先ほどの校庭開放の件だが、校庭開放委員会を立ち上げて、いろいろ地域の方でやっているが、なかなか多種多様な意見があって、今言われたように、一時は地域スポーツ型などいろいろな中学校を拠点にやろうということで盛り上がっていたが、現実問題としていろいろな学校を取り巻く環境の中で、いろいろな団体やスポーツ活動をされている方があって、我々もまとめにくい部分があるのと、いろいろな土地の方面から後押しがあって難しい状況である。整理ができれば一番いいが、なかなか学校も整理ができないような状況にある。

〔亀田委員〕

幟町中学校は、各学区の代表に利用クラブは小学校で活動するようにしてもらっている。そしてそこをスポーツ協会に委託したら、３年くらいかかったが、今は順調に行っている。そう考えると、出来ないことはないと思う。

〔東川会長〕

地域の話があったが、１つのやり方が他にも入っていくかどうか難しいこともあると思うが、そのほか特に入れられるかどうかは別として取り組みの仕方の例などはないか。

〔小野副会長〕

週１回以上スポーツをする市民の割合は目標に関係すると思うが、私は今まで色々なニュースポーツを学んで、それぞれ指導、伝達をしている。今までソフトバレーボールやペタンクをやってきた。現在、ユニカールを広めようと資格取得など何か調整の方でできないかと考えている。

〔東川会長〕

時間が過ぎたが、冒頭に申し上げたとおり、まずは経緯などを頭の中で揺り戻していただきたい。新しい委員にも加わっていただき、だいたい骨子案に関し了解を得られたと思うが、いくつか宿題がでたので、この辺りを整理し、１０月に予定している審議会で準備できればと考えている。